

いずみさの
教 育



問合先
学校教育課

泉佐野市の支援教育

「ともに学び、ともに育つ」ことができる学校をめざして

本市には小学校が13校、中学校が5校あり、そのいずれの学校にも支援学級があります。支援学級では、何らかの障害のある児童生徒が、個人に応じた課題にむけて日々頑張っています。

現在、国がめざす方向として「インクルーシブ教育」というものがあります。「ともに学び、ともに育つ」という言葉に表されるように、障害のある子もいない子と一緒に学んでいこうというものです。そのためには様々な場面で「支援」をしていくことが必要となります。何らかの障害があったとしても、それを適切に「支援」することができれば、障害は障害でなくなり、ともに学ぶことができるようになります。

◆学校での取組

現在、本市で行われている「支援」として、各学校に支援教育コーディネーターとよばれる教員を配置しています。その役割には、支援教育の視点をもった学級経営や授業展開などを、学校内に広めることがあります。そこで、コーディネーターや支援学級を担任している教員を対象とした「支援教育コーディネーター研修」を年間5回開いています。内容は、支援学校の教員を講師に招いて、障害についての知識を深めたり、具体的な支援方法などを学んだりしています。そして、その学びを通常学級での授業スタイルに生かせるように広めています。それ以外にも支援教育に関わる研修を様々な形で開催しています。

また、市として介助員を小中学校に配置することで、支援学級だけではなく通常学級での授業においても安心して取り組めるように見守っています。休み時間も同様に、ほかの児童生徒とのコミュニケーションなどを支援することで、良好な友人関係づくりにも努めています。

様々な「支援」があるなか、障害が障害でなくなり、「ともに学び、ともに育つ」ことができる学校となるように取り組んでまいります。

学校園紹介



みんなの成長を感じた修学旅行
～新池中学校～

新池中学校3年生は、5月23日～25日の3日間、長崎に修学旅行へ行きました。

本番までの準備では、学年スローガン「共に笑い、共に泣き、共に成長～We can do it」のもと、学級委員を中心に、しおりやモニュメントの作成、署名活動など自分たちの仕事を、責任をもってやりとげました。



平和学習では、自らの命を削り、放射線から多くの患者を救った永井隆さんのお話や、被爆された方々の手記から、命の尊さや今の平和な暮らしのありがたさを学びました。特に、吉永小百合さんの朗読劇「娘よ、ここが長崎です」では、涙を流して物語に聞き入る生徒の姿が印象的でした。

そして、迎えた当日の朝。集合場所では、これから始まる旅行に胸を躍らせる、晴れやかな顔がたくさん見られました。

新幹線への短い時間での乗車を無事に終え、一路九州へ。原爆資料館では、語り部である松尾幸子さんのお話を聞かせていただきました。実際に被爆された人の言葉に、これまで平和学習をしてきた生徒たちも衝撃を受け、真剣に聞き入っていました。

ホテルに移動してからの「高校生1万人署名」を行っている長崎の高校生との交流会では、核兵器の廃絶を訴える署名活動のお話を聞き、彼らの「微力だけど無力じゃない」というスローガンのもと、取り組む姿勢は、それ程歳の変わらない生徒たちに勇気を持たせてくれました。



2日目の長崎市内のフィールドワークでは、自分たちで力を合わせて無事にゴール地点にたどり着きました。その道中では、電車の乗り方を親切に教えてくれたり、にこやかに手を振ってくれたり、様々な人との出会いがあり、人と人との絆の大切さに気付く場面もありました。

みんなで笑い合ったり、力を合わせたり、学んだり、大きく成長できた修学旅行でした。



大木の宝物さがし
～大木小学校～

重要文化的景観に選定された豊かな環境の中で、子どもたちは本校の特色の一つである「自然体験学習」に元気に取り組んでいます。全校児童42人という小規模校のためさまざまな学習活動に1～6年生を縦割りにした活動を取り入れています。全校児童がともに過ごす時間が多く、温かさや優しさがあふれる、そして子どもたちの笑顔がいっぱいの学校です。



6月に行った「大木体験」もその一つでした。全校児童を「自然植物探索班」「自然生き物探索班」「歴史遺跡探索班」「大木自慢探索班」の4つに分け、それぞれの班に大学の先生や市の文化財係の方、そして地域のことに詳しい退職された先生をお招きし、専門的な立場から学ばせてもらう機会を持ちました。子どもたちは大木の風景や珍しい植物・生き物を写真に収め、先生方から詳しい説明を受けながら大木地区探索を進めました。日頃から見慣れている風景の中に、大木で見られなくなったような「宝物」を見つけ、子どもたちは大喜びでした。また、地区を歩き、たくさんの人との出会いも経験しました。地域の宝物は、実はそこに住む「人」であり、地区の学校に通う「子どもたち（自分たち）」であることも実感してもらえたことと思います。

本校で行う、「大木探検」や「川探検」などの「自然体験活動」は、子どもたちに大きな感動を与え、自然科学への興味・関心を高め、豊かな感性をはぐくんできていきます。これから大木の豊かな自然を最大限に活用し、子どもたちの豊かな心をはぐくむ教育を進めていきたいと考えています。

